Town Scape
タウンスケープ

宮代町

首都圏でいちばん人が輝く町



宮代町長　新井 康之氏

町長のメッセージ

宮代町は都市の便利さと豊かな田園風景をあわせ持つ、コンパクトで人と人とのつながりが感じられる町です。第5次総合計画の策定では町民の皆様と対話を重ね、さらに前期実行計画の5年間では町民の皆様とともに少しずつ計画を形にしていきました。その歩みは、町にとって大きな財産となっています。

令和8年度からは後期実行計画がスタートしました。物価高など、社会の課題が複雑化するなか、地域のつながりを大切にし、変化にきめ細かく対応していきます。これからの5年間も「ともに考え、ともに動く」まちづくりを進め、将来像である「首都圏でいちばん人が輝く町」の実現に向け、町民の皆様と着実に歩んでまいります。

はじめに

宮代町は埼玉県の北東部、都心から40㎞圏に位置する人口約3万3,000人のまちである。県南部や東京への通勤・通学の利便性を背景に、昭和40年代以降、ベッドタウンとして人口が増加した。

道路は、東北自動車道の久喜ICや蓮田スマートIC、圏央道の幸手ICが利用でき、交通利便性が高い。鉄道では、東武動物公園駅を中心に都心方面へ向かう東武スカイツリーライン、栃木・群馬方面に向かう東武伊勢崎線、日光方面に向かう東武日光線が走り、町内には3つの駅がある。駅周辺には住宅地が広がり、少し離れると、豊かな自然が残る田園地帯が広がっている。

町内には東武動物公園や日本工業大学が立地するなど、多彩な顔を持つ。東武動物公園を一度は訪れたという埼玉県民も多いのではないだろうか。

東武動物公園駅からほど近い町役場の隣には、特徴的な外観のコミュニティセンター「進修館」（表紙写真）がある。「町のみんなの大きな家」という設計思想のもと、多くの町民がサークル活動やセミナーなどに利用するほか、さまざまなイベントも開催されている。イベント開催時には町外からも多くの人が訪れる。季節ごとに表情を変える建物前の広場も美しく、映画やミュージックビデオの撮影場所としても利用されている。町民の交流の場であるとともに、訪れる人にとっても心地よい空間となっている。

地域拠点施設として小学校の再生を目指す

宮代町には現在小学校4校、中学校3校があるが、いずれも建設から長期間が経過しており、順次建て替えていく必要がある。建て替えに際しては単なる学校施設としての更新にとどまらず、学校を地域の中心施設として位置づけ、学校と地域拠点を一体とした複合施設づくりを進める計画である。

町では須賀小学校の建て替えについて、2022年度に基本構想を策定した。2023年度の基本計画策定に際してはワークショップを開催し、地域住民や子育て世代などから幅広く意見を集めた。

須賀小学校の建て替えでは学童保育所に加えて公民館を併設する計画となっている。同一建物内に共用スペースを設けることにより、世代を超えた新たな交流や活動が期待される。



須賀小学校でのワークショップには多くの人が参加

宮代町概要

町の木 シイガシ　町の花 ハクモクレン

人口(2026年10月1日現在)	33,239人
世帯数(2026年10月1日現在)	16,088世帯
平均年齢(2026年1月1日現在)	50.4歳
面積	15.95㎢
製造業事業所数	26所
製造品出荷額等	78.9億円
卸・小売業事業所数	158所
商品販売額	138.7億円
農業産出額	9.5億円
一人当たり都市公園面積	5.26㎡

資料:経済産業省「経済構造実態調査」ほか



主な交通機関

●東武スカイツリーライン　東武動物公園駅、姫宮駅
　東武伊勢崎線　東武動物公園駅、和戸駅
　東武日光線　東武動物公園駅
●東北自動車道　久喜ICから町役場まで約10㎞

✹農でつながるコミュニティエリア「新しい村」の拡充

宮代町西部には今も豊かな田園地帯が広がっている。町では農業・自然・交流を一体的に体験できる施設として、2001年に開設した「新しい村」について、今後3年かけ、機能の充実・強化を図っていく方針だ。

「新しい村」の機能としては、「地産地消の推進」、「(農を軸とした)コミュニティの創造」、「町の農業を担うアグリ機能」の3つが挙げられ、3機能とも充実・強化を図っていく計画だ。「地産地消の推進」では、農産物直売所森の市場「結(ゆい)」について、利用者の利便性や滞在環境の向上に向け、直売所の拡張や屋外トイレを設置する。「(農を軸とした)コミュニティの創造」では、交流人口の増加に向けて農業・収穫体験エリアを充実させる。「町の農業を担うアグリ機能」については、耕作農地の拡大に伴う米の増産に対応するため、米低温倉庫などの農業生産施設を整備するとともに、地場産農産物の高付加価値化に向けた加工施設を整備する。


「新しい村」での田植え体験の様子

さらに、2028年度にかけて「新しい村」のPRにも力を入れていく方針だ。宮代町を訪れた際には、「進修館」とともに、「新しい村」にもぜひ立ち寄ってみてはいかがだろうか。

✹「行かない窓口」の取り組み強化

宮代町では第5次宮代町総合計画の後期実行計画(2026年度~2030年度)において、行政サービスのDX化を進めている。その一環として各種申請をLINEから行える仕組みを整備することにより、「行かない窓口」の取り組みを強化している。今年度は、物価高騰対策の給付金についてもLINEで申請を受け付け、申請者がスマートフォンに届く受け取り番号を活用して、即日で給付金を受け取れる仕組みを導入した。申請件数の92%が「LINE申請・ATM受け取り」を選択し、そのうち約半数が申請当日にATMでの現金受け取りを完了したという。

住民が窓口に出向いたり、書類を郵送したりする手間を省くことで、行政手続きの利便性を高めるとともに、職員の事務負担の軽減にもつなげている。今後も、「行かない窓口」の取り組み強化により、住民のさらなる利便性の向上と行政運営の効率化が期待される。

(太田富雄)